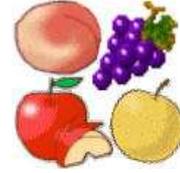




# 平成25年度 果樹情報 第1号

(平成25年4月2日)

福島県農林水産部農業振興課



## 1 気象概況 (3月下旬：果樹研究所)

3月の平均気温は5半旬が4.3℃で平年より1.7℃低く、6半旬が6.3℃で平年より0.4℃低い状況でした。この期間の降水量は0mmでした。

## 2 発育状況 (果樹研究所)

- (1) もも「あかつき」の発芽は3月20日で平年より6日早く、「ゆうぞら」は3月19日で平年より8日早い状況でした。
- (2) なし「幸水」の発芽は、3月29日で平年より5日早く、「豊水」は3月28日で平年より3日早い状況でした。
- (3) りんご「つがる」の発芽は3月20日で平年より7日早く、「ふじ」は3月22日で平年より7日早い状況でした。

表1 発芽・展葉状況

樹種	品種	発芽			展葉		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	3月20日	3月26日	3月31日	—	—	—
	ゆうぞら	3月19日	3月27日	3月30日	—	—	—
なし	幸水	3月29日	4月3日	4月10日	未	4月17日	4月18日
	豊水	3月28日	3月31日	4月9日	未	4月12日	4月16日
りんご	つがる	3月20日	3月27日	4月1日	未	4月11日	4月14日
	ふじ	3月22日	3月29日	4月3日	未	4月10日	4月13日

注) 平年は1981～2010年の平均値。

## 3 開花予測 (果樹研究所)

今後の気温が平年並みに経過した場合、もも「あかつき」の開花始めは4月12日頃で平年より3日早く、なし「幸水」の開花始めは4月21日頃で2日早く、りんご「ふじ」の開花始めは4月24日頃で3日早いと予測されています。

なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、今後の気温の推移により大きく変動する可能性があるため注意が必要です。

表2 開花予測日

樹種	品種	開花始め		今後の気温経過と開花予測日		
		昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
もも	あかつき	4月24日	4月15日	4月12日	4月10日	4月14日
	なし	4月28日	4月23日	4月21日	4月17日	4月24日
りんご	ふじ	5月1日	4月27日	4月24日	4月21日	4月29日

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1981～2010年の平均値。

## 東北地方1か月予報(仙台管区気象台 平成25年3月29日発表)より

今後の気温経過は、1週目（3月30日～4月5日）は平年並みまたは低い確率がともに40%、2週目（4月6日～4月12日）は平年並みの確率が40%、3～4週目（4月13日～4月26日）は平年並の確率が40%となっています。

### 4 栽培上の留意点

#### (1) 防霜対策

生育が進むにつれて耐凍性が低下し凍霜害の危険性が高くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

事前対策としては、防霜資材の準備を徹底するとともに、下草は地温の上昇を図るため4月中旬以降をめぐりに5cm程度に刈り込み（地際部まで刈ると放射性物質をまきあげるおそれあり）、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下を助長するため）。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保を図ってください。

#### (2) 結実確保対策

開花期は直前の気温に大きく影響されるため、今後の気温の推移に注意して、訪花昆虫の導入、共同開やく所の開設、人工受粉のための労力確保などを計画的に実施しましょう。

### 5 病虫害防除上の留意点

#### (1) 病害

##### ア りんご腐らん病

伝染源となる枝腐らん、胴腐らんの発病部位は確実に削り取るかせん除し、塗布剤を塗りましょう。なお、伐採した被害枝幹、および削り取った病患部は園内に放置せず適切に処分してください。また、展葉初期の防除を徹底しましょう。

##### イ ももせん孔細菌病（もも、ネクタリン）

前年は発病が多かったため、薬剤防除を徹底しましょう。特に開花直前の薬剤散布を徹底し、感染防止を図りましょう。また、春型枝病斑の症状は開花後頃から見られるため、疑わしい枝枯れは見つけ次第せん除しましょう。

##### ウ なし黒星病

本病は前年の被害落葉や罹病芽（りん片）が伝染源になり、開花前から胞子を飛散するため、発芽1週間後の防除を徹底し、初期感染防止に努めましょう。

#### (2) 虫害

##### ア 主要チョウ目害虫の発生時期

今後の気温が平年並みに経過した場合、キンモンホソガおよびナシヒメシクイの防除適期は、4月6半旬～5月1半旬と推定されます。有機リン剤は訪花昆虫に対して影響が大きいため、散布時期が遅れないように注意しましょう。

##### イ モモハモグリガ

今後の気温が平年並みに経過した場合、越冬世代成虫の防除適期は4月6半旬～5月1半旬と推定されます。今後の気象経過により防除適期も変動します。落花10日後頃の防除を徹底しましょう。

##### ウ リンゴハダニ

リンゴハダニのふ化盛期は4月5半旬頃と予想されます。越冬卵密度の高い園では、落花後

以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当り雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を散布しましょう。

エ リンゴモンハマキ（もも、なし）

今後の気温が平年並みに経過した場合、越冬世代成虫の誘殺盛期は5月21日頃と予測されま  
す。昨年、本種の発生が多かった園では、越冬世代の密度低下に努めましょう。本種は枯れ葉  
を枝等に貼り付けた中にマユを作り、若齢幼虫態で越冬する（図1、図2）ので、摘らい作業  
などと平行して越冬マユを除去しましょう。なお、越冬量の多いもも園では、開花10日前頃の  
防除を必ず実施しましょう。

表3 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定  
(演算方法は三角法・平成25年4月1日現在)

今後の気温予測	モモハモグリガ	リンゴハダニ	リンゴモンハマキ
	越冬世代 誘殺盛期	越冬卵 ふ化盛期	越冬世代 誘殺盛期
2℃高い	4月16日	4月17日	5月12日
平年並み	4月21日	4月23日	5月21日
2℃低い	4月28日	4月30日	6月1日

起算日：3月1日



図1 リンゴコカクモンハマキ越冬場所  
(枝に貼り付いた枯葉)



図2 リンゴコカクモンハマキ越冬虫

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。